

八尾川総合開発事業「銚子ダム」建設に伴う

妙光寺跡発掘調査報告書

平成5年3月

隠岐島後教育委員会

例 言

1. 本書は、隠岐島後教育委員会が、島根県西郷土木建築事務所の委託を受けて、平成3年度と平成4年度に実施した、妙光寺跡発掘調査の概報である。
2. 調査は、平成3年度に範囲確認のための試掘調査を実施し、その結果に基づき、平成4年度に発掘調査を実施したものである。

3. 調査組織

調査主体	小柏美金	隠岐島後教育委員会教育長
事務局	門脇裕	隠岐島後教育委員会社会教育課長
	角橋義明	隠岐島後教育委員会社会教育係長（～平成4年9月）
	村上勝夫	隠岐島後教育委員会社会教育係長（平成4年10月～）
調査指導	若林久	隠岐島後文化財保護審議会会長
	野津徳重	隠岐島後文化財保護審議会副会長
調査員	横田登	隠岐島後教育委員会社会教育課

4. 現場における発掘作業及び遺物整理作業に参加、その他調査の実施に御協力頂いた下記の方々の名を記し、感謝の意を表する次第である。

（敬称略）

秋庭サツ子、小原福松、大西英之、笠根真、梶村照一、佐藤格文、
佐藤兵午、斎藤信次、斎藤正、坂本フサ、白川稔、高井玉子、
長尾シゲ、中西冬人、仲山泰子、長谷川ユキ子、花沢和広、花沢稔、
花沢タツ子、平井かすみ、広江香織、松田知恵、松永剛、柳原和幸、
吉田フク、若林兼盛、若林タケコ、若林ミカ、脇田浩二

隠岐島後森林組合、西郷みんなの作業所、ニマの里、隠岐高等学校バスケット部

5. 本書の編纂、執筆は、調査指導の先生方の指導、助言を得ながら横田登が行った。
6. 挿図中の矢印は真北を指す。なお、西郷における磁気偏角度は、 $N - 7^{\circ} 00' - E$ である。
7. 本書中の高さはすべて海拔高である。
8. 遺構表示は次のとおりである。

S B 掘立柱建物跡、礎石建物跡 S D 溝跡、溝状遺構

S X 特殊遺構

目 次

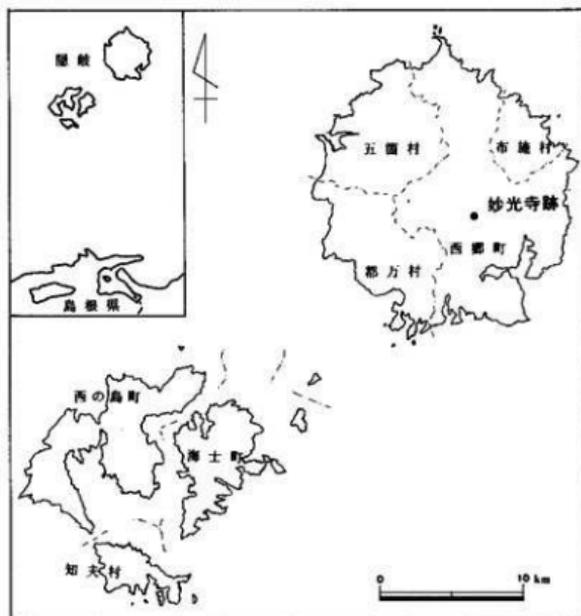
I	調査の経過	1
II	歴史的環境	2
III	調査の概要	4
IV	遺構と遺物	5
V	おわりに	8

I 調査の経過

鳥根県西郷土木建築事務所は、八尾川総合開発事業（鏡子ダム建設）を計画し、平成2年4月に、事業予定地内（ダム建設は県道の付替え工事を伴うもので、これに関する予定地の埋蔵文化財確認調査を随岐島後教育委員会に依頼した。

それを受けて随岐島後教育委員会では、同年5月に現地踏査を実施した。その結果、事業予定地内で石垣の一部を検出し、その近くで数多くの石が畑耕作のために集められ、積み上げられていた。それらの石は、すぐ西側の山のものでなく、中には、礎石に使用されたと思われるような大きな石も混じっていた。又、地区の古老の話によると、明治初年の廃仏毀釈の頃までには寺があったということであり、江戸時代に書かれた随岐の見聞録「地補随州記」の原田村（現西郷町大字原田）の条に「・・一、鏡子山妙光寺 真言宗・・」の記述もある。これらのことから、この地に「妙光寺跡」を比定し、西郷土木建築事務所にその旨を回答し、併せて、文化財保護の見地から設計変更等、事業予定地から外すことを依頼した。

それ以後数回にわたり、保存の方法について協議を重ねたが、治水、利水を目的とするダム建設という大規模な事業でもあり、設計変更は困難であるということになった。このため、事業実施前に発掘調査を行うこととなったものである。調査は平成3年度に試掘調査を行い、それを基に平成4年度に本調査を実施した。



第1図 遺跡位置図

II 歴史的環境

隠岐諸島は、島根県の北東方沖合約40~80kmに位置し、四つの住民島と数多くの無人島で構成されている。その四つの住民島のなかで、面積246km²の島後の島は隠岐諸島最大の島で、妙光寺跡は、この島後にある。島後最大の河川八尾川が、上流西郷町大字原田で二つに分かれ、その東側に分かれた支流、鏡子川の川沿いに位置する。

隠岐は、離島とはいえ歴史的には古く、旧石器時代はまだ確認されていないが、縄文時代からの数多くの遺跡が存在し、古代から中近世にかけての中央政府との関係を示す文書も多い。妙光寺跡の所在する西郷町の八尾川流域についてみると、次のとおりである。

縄文時代の遺跡は、現在の隠岐の玄関口ともいえる西郷湾内に多くあり、その中で宮尾遺跡は隠岐では最古の土器を見せる縄文前期の遺跡である。特に、縄文時代に関していえば、隠岐は中国地方では唯一の黒曜石の産地であり、本土との交流が深く、山陰各地の遺跡から隠岐産の黒曜石が出土する。

弥生時代の遺跡は、今のところ発見例は少ないが、月無遺跡、大城遺跡などがある。大城遺跡では、肩の部分に3個の子壺を持つ、スタンプ施紋の壺型土器が出土している。

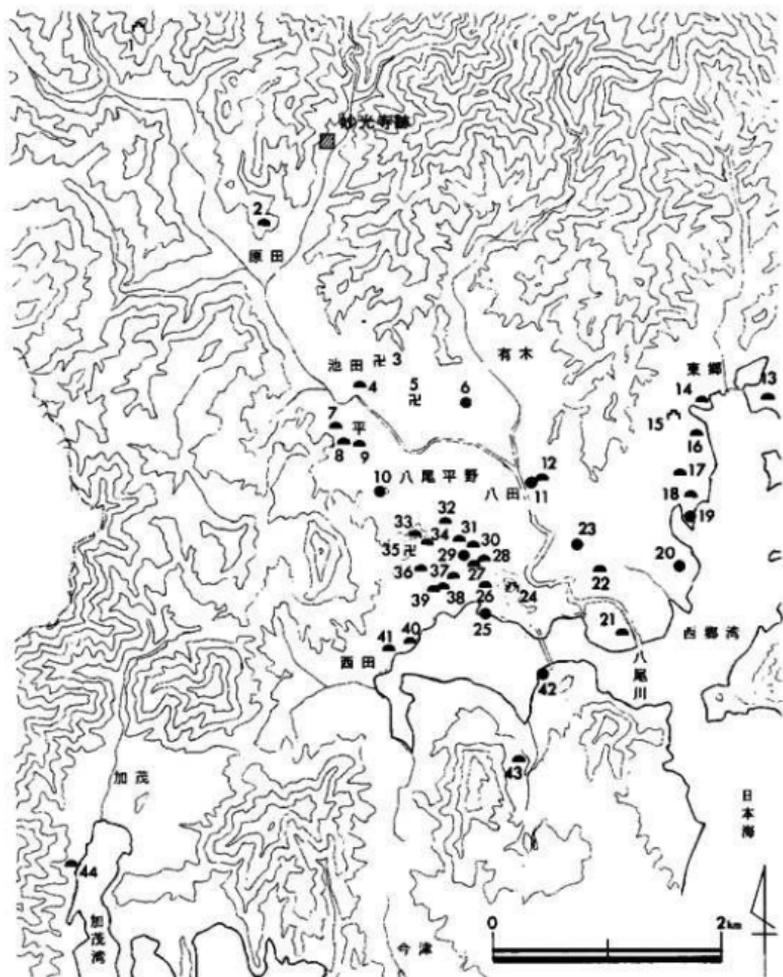
古墳時代になると、当地にも数多くの古墳が造られるようになる。ただ、発掘調査例も少ないが、分布調査でも4世紀代の古墳は今のところ見つかっていない。それと、島根県出雲地方に多い方墳系が少ないのも一つの特徴といえよう。8世紀代に入ると全長20~50mの前方後円墳も築造されるようになるが、全体としては小規模な円墳が多い。

奈良朝になると、西郷湾の北側、前述の八尾川がつくる島後最大の平野に条里制の遺構が確認されている。さらに、その北方の台地には尼寺跡があり、近くには隠岐国分寺(僧寺)が現存する。南方には、隠岐国総社玉若命神社がある。この時代の「隠岐国」は大陸、朝鮮半島に対して国防上の重要な拠点の一つであったことも、文献などから認められる。

隠岐は流人の島とも言われ、神亀元年(724)、遣流の島と定められてから多くの人が送られてこられた。元弘の変(1331)により隠岐に流された後醍醐天皇は、隠岐国分寺に滞在されたとも伝えられる。

戦国時代には、山陰の強大な武将、尼子氏との関係も深く、宮田城、国府尾城などの城跡も残っている。江戸時代には、西廻り海運の寄港地として、栄えたところでもある。

妙光寺は、このような歴史的環境の中に所在する。



第2図 八尾川流域の主な遺跡

1. 勝山城跡 2. 神谷古墳 3. 藤岐園分寺境内 4. 船ヶ谷古墳 5. 藤岐園分尼寺跡 6. 尼寺原遺跡 7. 平神社古墳
8. 平西古墳 9. 子安神社古墳 10. 中山遺跡 11. 月無遺跡 12. 名田古墳群 13. 飯田小学校裏遺跡 14. 水産高校横穴
15. 宮田城跡 16. 小田古墳 17. 神米古墳群 18. 宮尾古墳群 19. 宮尾遺跡 20. 清久寺裏遺跡 21. 天神古墳
22. 西郷小学校古墳群 23. 大城遺跡 24. 国府尾城跡 25. 下西海岸遺跡 26. 白髪古墳群 27. 二宮神社古墳
28. 甲ノ原2号墳 29. 能木原遺跡 30. 斎原谷古墳群 31. 斎原谷北古墳群 32. 小田原宅裏古墳群 33. ヒノメサン古墳群
34. 椿古墳 35. 権得寺跡 36. 玉若酢命神社古墳群 37. 甲ノ原1号墳 38. 徳岐氏裏山古墳 39. 玉若酢命神社境内古墳群
40. 大座古墳群 41. 磯中学校脇古墳 42. くだりま遺跡 43. 飯ノ山横穴 44. 桐茂尾横穴

Ⅲ 調査の概要

(1) 平成3年度調査

調査は、対象区域に方眼を組み、行うことにした。方眼方位は磁北にとらず、前述の石垣の方向、地形の状況に合わせたものにした。

調査区の設定については、対象区全域を大きくA・B・Cの3ブロックに分けた。石垣が検出されたBブロックについては試掘区を多くし、Cブロック、Aブロック、Bブロックの順に試掘調査を実施した。以下、各ブロック毎の概要を述べることにする。

Cブロック（試掘区№1～10）

全般に表土層は深く、特に№8・9・10については、50～60cm程度下げても地山面は検出できなかった。遺物は検出されなかった。Cブロック中ほどは、耕作のために水路が切られたり、かなり覆乱されており試掘区は設定しなかった。

Aブロック（試掘区№11～24）

表土層は浅く、ほぼ地形に沿った形で覆っている。山際の試掘区では礫を多く含んでいた。遺構、遺物は検出されなかった。

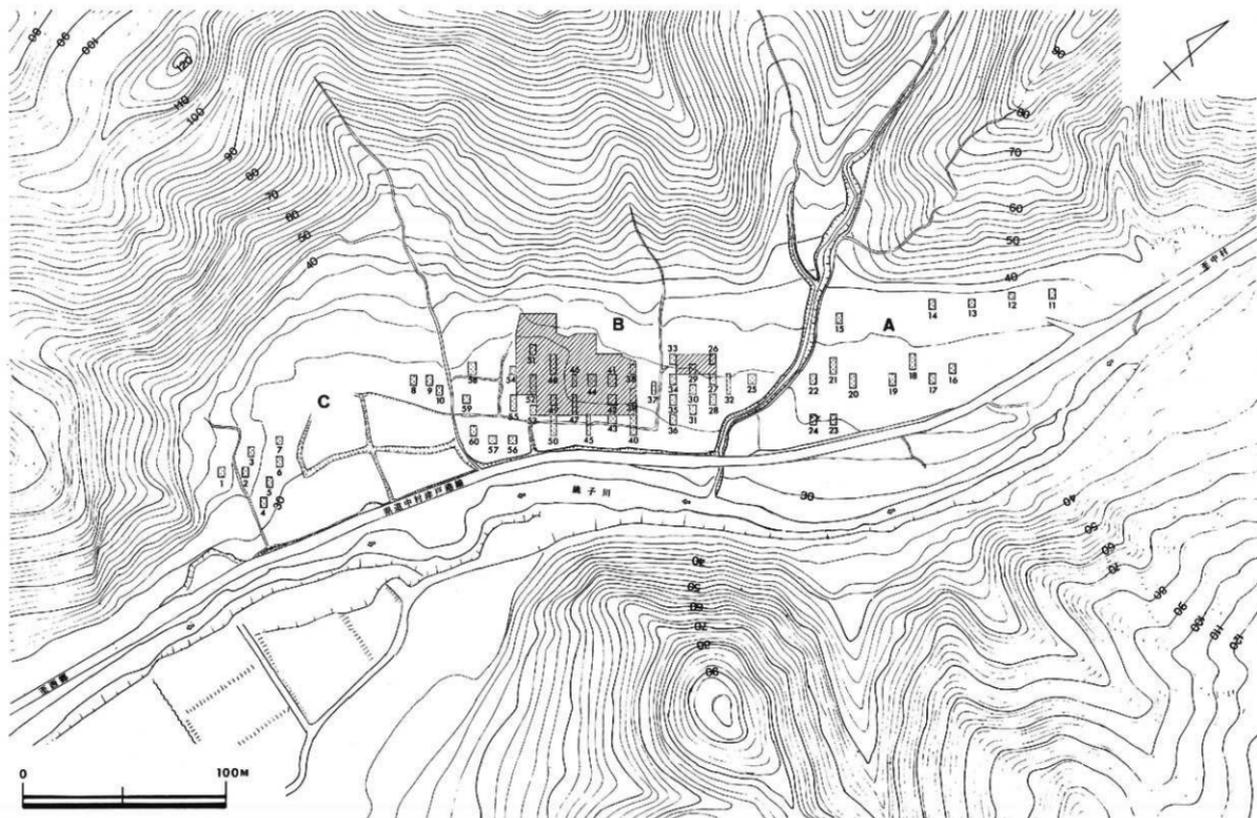
Bブロック（試掘区№25～60）

№25～36の試掘区では、磁器片が数点出土した。いずれも小片で年代は不明である。27試掘区では、浅い溝状のものが見られ、確認のため、北側に32試掘区を設定し調査したが、検出できなかった。№37以下の調査区では、多くの調査区で磁器片の出土を見た。

本堂跡と比定した所では4つ調査区（41、42、44、46）を設定し、表土を薄く削ぎ、礎石痕を探したが、検出できなかった。ただ、47調査区では、しっかりとした石垣の一部が確認できた。この石垣の下（南西側）の部分、№49～55の調査区は、出水が激しく調査は困難であったが、遺物も多く、又、性格は不明だが、石組み遺構も検出された。

(2) 平成4年度調査

試掘調査の結果から、A・Cブロックは遺構の所在の可能性が薄いと判断し、Bブロックを中心に発掘調査を実施した。Bブロックの中の上流側は、試掘で遺物が若干出土していたので、範囲を広げてみたが遺構・遺物が検出されず、下流側に重点をおいた。本堂跡の位置は明確には確認できなかったが、それも含めて、建物跡4、溝状遺構2、さらに、試掘調査で一部が見つかった石組（石列）遺構4を検出した。又、小片ではあるが、陶磁器片の出土もみられた。



第3図 調査区配置図

平成3年度試験区
 平成4年度調査区

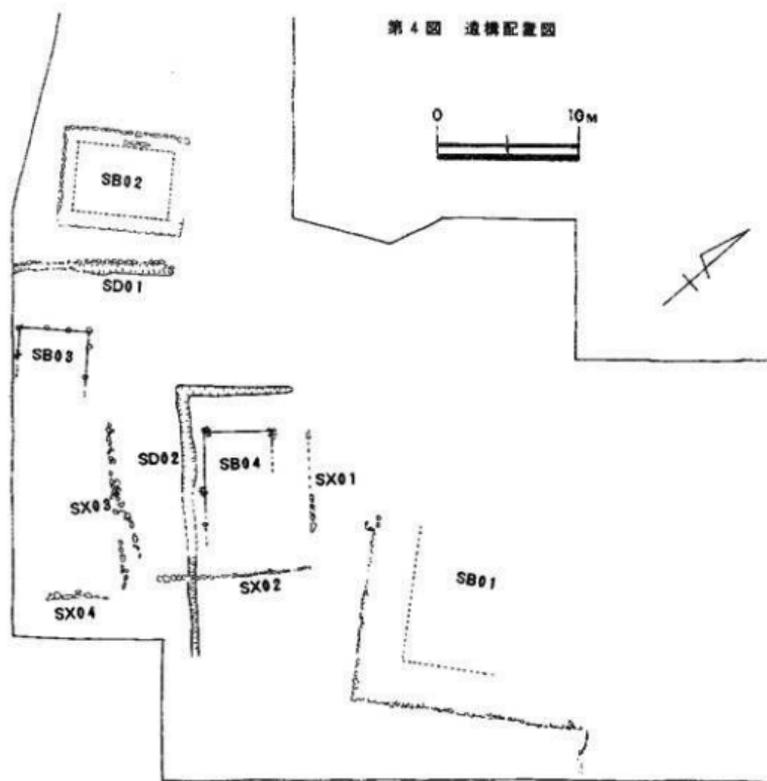
IV 遺構と遺物

(1) 遺構

SB01

本堂と思われる建物である。柱跡、礎石が検出されたわけではないが、地形観察、他の検出遺構から本堂跡としたものである。柱跡、礎石が検出されていないので規模は不明であるが、広さからみると、あまり大きくはないと推定される。

南東・南西側にしっかりした石垣があり、建物は南西向きに建っていたものと思われる。ただ、この石垣の石も最上部は残存せず、敷地もかなり削平を受けているようである。

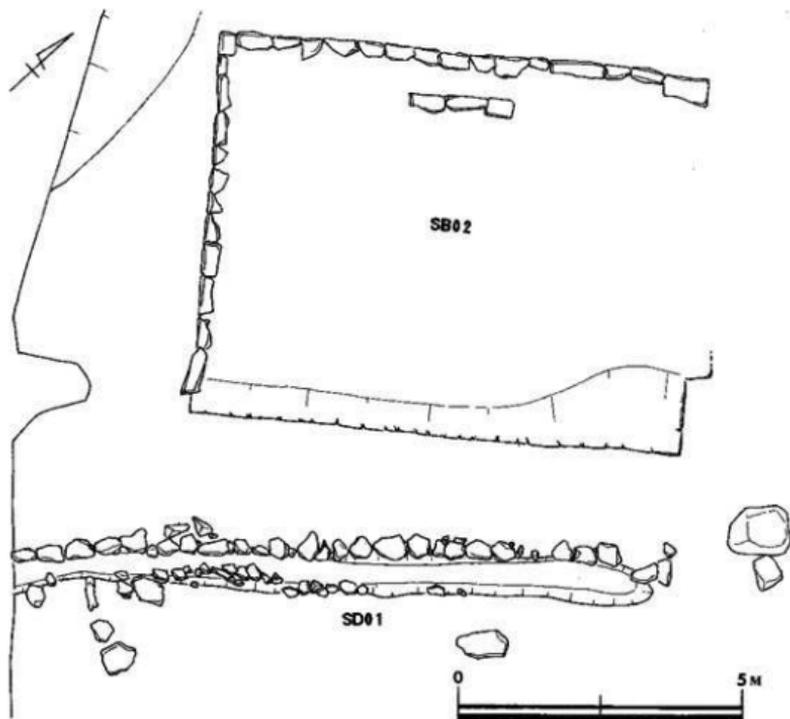


SB02

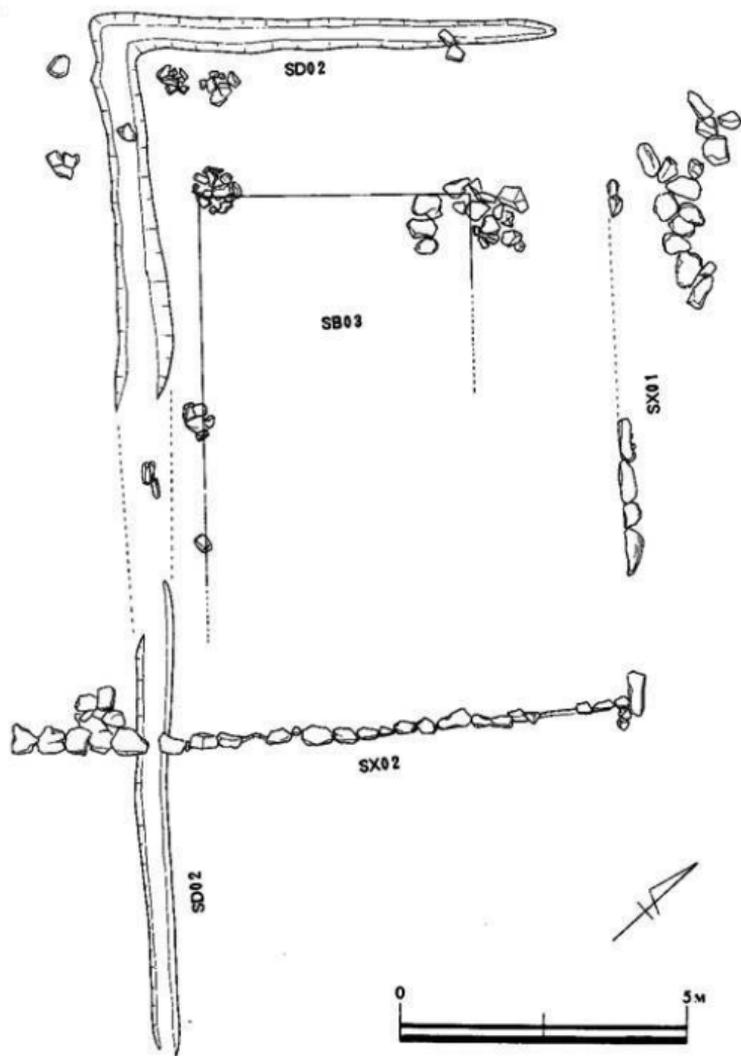
庫裏跡と思われる建物である。SB01と同じく礎石等は確認されていない。建物の方向はSB01とほぼ直交し、南東を向いていたものと思われる。後ろは山の斜面となっている。石垣で敷地を造っているが、前面についてはSB01同様、最上部の石が無くなっている。

SB03

礎石（配列された石組）から判断したものである。SB01・02より一段下がった平坦地に建てられている。北西側は3間分検出されているが、南東側への広がり是不明である。建物方向はSB01・02とほぼ同じであり、同時期の建物と考えられるが性格等は分からない。



第5図 SB02・SD01実測図



第6圖 SB04・SD02・SX01・SX02実測図

SB04

礎石痕跡は、4つしか見つかっていないが、後述のSD02とも併せて建物跡としたものである。南東側への広がり是不明で、全体の規模は分からない。SB01・02と、方位は異なる。

SD01

SB02に伴うものと考えられる。深さは、15~20cmで、上縁部に石組みを持ったしっかりした溝である。

SD02

SB04に伴うものと考えられる。SB04の南西側(山側)と南東側で検出された。南東側では、途中、切れているが、溝の方向・埋土の状況から同一の溝と判断した。素堀りの浅い溝である。

SX01~04

いずれも整然とした石列である。02についてはSB04に係わるものと考えられる。01についても、方向的にはSB04に関係あるように見えるが、石列の平らな面をSB04に向けており、別のものとも思われる。03・04についても性格は不明である。

(2) 遺物

多数出土はしているものの、いずれも小片で不明瞭な点が多い。今後、さらに検討を加えたい。

V おわりに

これまで、項を分けて調査の概要を述べてきたように、本堂跡の特定もできず、検出された建物の性格もつかめていない。ただ、当地においては、明治初めの廃仏毀釈により、この妙光寺も含め、ほとんどの寺院が、被害を受け、貴重な宝物、文書類を失っている。

このような状況の中で、今回の発掘調査の意義深いもので、中近世の寺院址の研究に資するところは非常に大きいといえる。今後、古文獻の研究、出土遺物に詳細な検討を加えることにより、中近世の寺院址の解明に役立つものといえよう。

調査前の状況



全景（北より）



全景（南西より）



本堂跡比定地（南東より）

試掘の状況



Aブロック (南より)

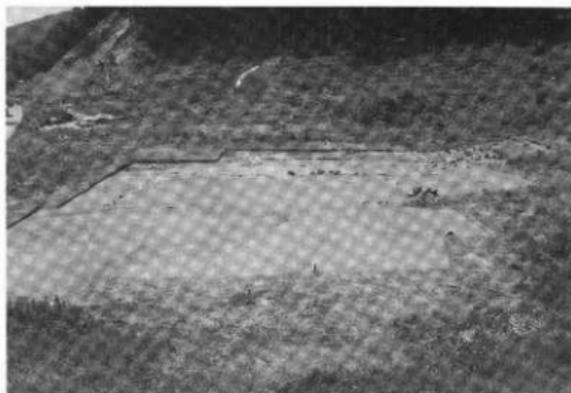


Bブロック (東より)



本堂跡比定地 (南東より)

調査後の状況



全景（北東より）

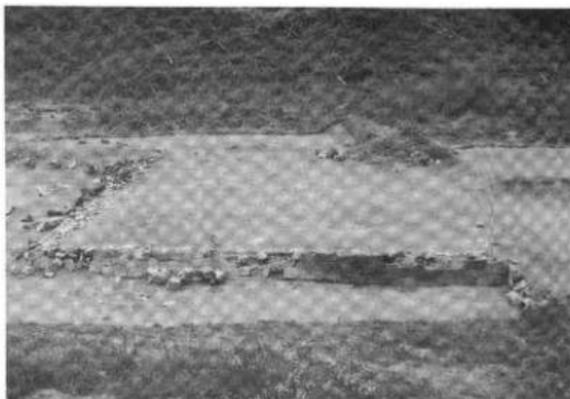


全景（南東より）

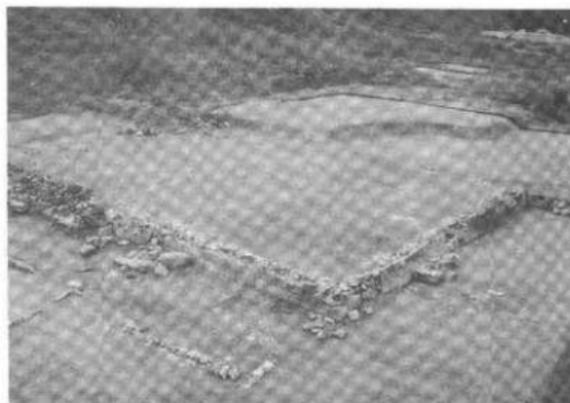


全景（南西より）

検出された遺構



SB01 (南東より)



SB01 (南より)



SB01 (南西より)

検出された遺構



S B02・03・04、S D01・02、S X02・03・04 (南東より)

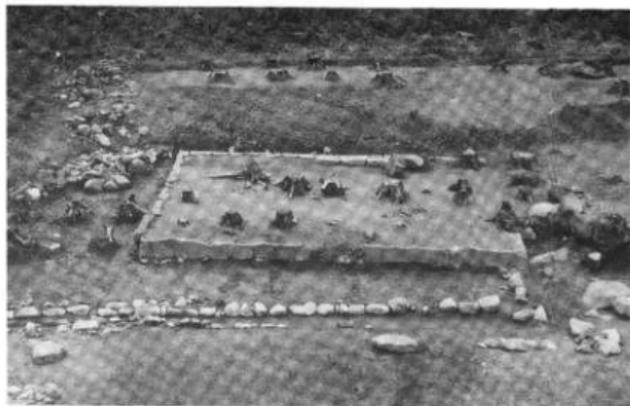


S X02 (南西より)



S B02・04、S D01・02、S X01・02 (南東より)

検出された遺構



SB02、SD01（南東より）

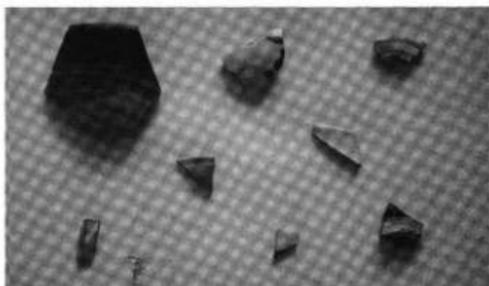


SB02・03、SD01（南東より）

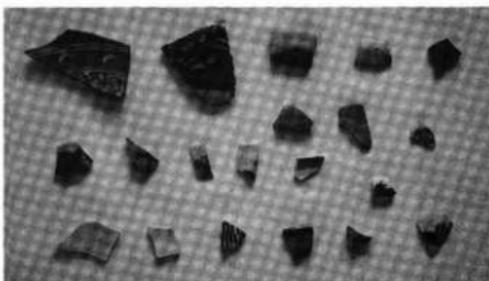


SX04（北西より）

出土遺物



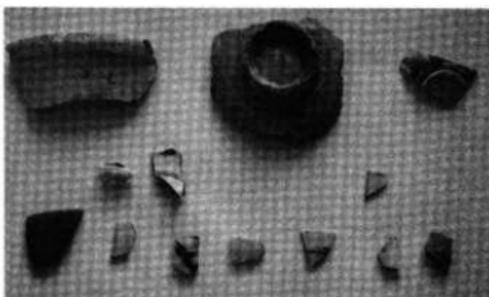
SB01



SB02



SD01



SB03附近

八尾川総合開発事業「鎌子ダム」建設に伴う
妙光寺跡発掘調査報告書

編 者 岡岐島後教育委員会
岡岐郡西郷町西町八尾の一，58
発 行 平成5年3月
印 刷 岡渡部印刷
松江市中願町192